

September 10, 2019

【前日の為替概況】ドル円、上昇 クロス円の上昇につれたほか米債利回り上昇が手掛かりに

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は上昇。終値は107.24円と前営業日NY終値(106.92円)と比べて32銭程度のドル高水準だった。ポンド円や資源国のクロス円の上昇につれた買いが入ったほか、米10年債利回りが1.6472%前後まで上昇したことなどを手掛かりに円売り・ドル買いが優勢となった。前週末の高値107.10円や5日の高値107.23円を上抜けて一時107.27円と8月2日以来の高値まで値を上げた。ムニューシン米財務長官が「米経済がリセッションに陥る恐れはない」「(米中通商協議について)中国は良好な取引を目指している」と述べたことも好感された。

一時は100ドル超上昇したダウ平均が下げに転じるとドル円にも売りが出て106.93円付近まで下押しする場面もあったが、下押しは限定的だった。ダウ平均も引けにかけては持ち直している。

ユーロドルは反発。終値は1.1048ドルと前営業日NY終値(1.1029ドル)と比べて0.0019ドル程度のユーロ高水準だった。「独政府は厳格な財政ルールが定めた上限を上回る公共投資を可能にする『影の予算』創設を検討」との報道を受けて、ユーロ買い・ドル売りが優勢となった。前週末の高値1.1057ドルを上抜けて、1時30分過ぎに一時本日高値となる1.1068ドルまで値を上げた。ただ、米長期金利の上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが出ると終盤伸び悩んだ。

ユーロ円は反発。終値は118.47円と前営業日NY終値(117.89円)と比べて58銭程度のユーロ高水準。独財政刺激策への期待で円売り・ユーロ買いが出たほか、資源国のクロス円が買われた流れに沿って一時118.51円と日通し高値を付けた。

なお、豪ドル円は一時73.67円、NZドル円は68.96円、カナダドル円は81.54円まで値を上げた。

ポンド円はしっかり。欧州時間に発表された7月の英国内総生産(GDP)や鉱工業生産、貿易収支などが予想より強い内容だったことを受けて、景気後退(リセッション)懸念が後退。全般ポンド買いが広がった。ジョンソン英首相が秩序ある欧州連合(EU)離脱に前向きな姿勢を示したこともポンド買いを促し、一時132.56円まで上値を伸ばした。なお、英議会下院のバーコウ議長が「遅くとも10月末には引退する」と表明すると一時131.90円付近まで下押しする場面もあったが、反応は一時的だった。

英上院はこの日、10月末に迫ったEU離脱期限を来年1月末に延期する法案がエリザベス女王の裁可を得て成立したと発表した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商協議への楽観的な見方から堅調推移か

本日の東京市場のドル円は、来月開催予定の第13回米中閣僚級通商協議への楽観的な見方、米10年債利回りが1.64%台まで上昇していることで底堅い展開が予想される。

しかしながら、来週17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での第2次追加利下げが確実視されていること、ムニューシン米財務長官が米中通商協議では、為替相場と為替操作が協議されると発言したこと、香港のデモへの警戒感などから上値は限定的か。

本日は、中国の8月の消費者物価指数(予想:前年比+2.6%)と生産者物価指数(予想:前年比-0.9%)が発表されるが、予想通りに物価指数が低下した場合、中国8月の貿易黒字の減少が示唆するように、中国の景況感悪化懸念を強めることになる。

第13回米中閣僚級通商協議では、ムニューシン米財務長官が為替相場と為替操作を俎上に上げる、と警告していることで、中国人民元の対ドル基準値には引き続き要注目となる。

今月下旬の日米首脳会談での合意が目指されている日米通商協議では、対米貿易黒字の約80%を占める自動車輸出に関して、関税の引き上げ、数量規制、為替条項などの可能性が払しょくされたわけではないので、引き続き関連報道に要警戒となる。

また、本日で94日目を迎える香港の抗議デモは、林鄭香港行政長官の逃亡犯条例改正案の撤回にも関わらず収束に向かうことなく、米政府に介入を要請しており、トランプ米大統領も、「天安門事件のようなことがまた起これば、貿易問題をめぐり中国とのディール(取引)は困難」と警告していることで、10月1日の中華人民共和国建国70周年に向けて予断を許さない状況となっている。

ドル円のテクニカル分析では、4月の112.40円を高値に窓を空けて下落トレンドが始まり、ダブルボトム(104.87円・104.46円)を付けている。ドル円の目先の上値の目処(めど)は、一目均衡表・雲の下限107.42円や上限の107.73円、下値の目処(めど)は、一目均衡表・転換線の106.51円となる。中

期的には、ドル円のこれまでの年間最少変動幅は約 10 円なので、112.40 円が年間高値ならば安値は 102.40 円付近、104.46 円が年間安値ならば、高値は 114.46 円付近となる。年末に向けて、114.46 円と 102.40 円の可能性を念頭に置きながら、トランプ米大統領と習中国国家主席、そしてパウエル FRB 議長とのチキンレースを見極めていくことになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 8 月マネーストック M2 (予想: 前年比 2.4%)

<海外>

- 10:30 ◎ 8 月中国消費者物価指数 (CPI、予想: 前年比 2.6%)
- 10:30 ◎ 8 月中国生産者物価指数 (PPI、予想: 前年比▲0.9%)
- 10:30 ◇ 8 月豪 NAB 企業景況感指数
- 15:00 ◎ 8 月ノルウェーCPI (予想: 前月比▲0.5%/前年比 1.8%)
- 15:45 ◇ 7 月仏鉱工業生産指数 (予想: 前月比 0.5%)
- 16:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 16:30 ◎ 8 月スウェーデン CPI (予想: 前月比▲0.3%/前年比 1.7%)
コア指数 (予想: 前月比▲0.3%/前年比 1.5%)
- 17:30 ◎ 8 月英雇用統計 (予想: 失業保険申請件数推移 3 万件/失業率なし)
- 17:30 ◎ 5-7 月英失業率 (ILO 方式、予想: 3.9%)
- 21:15 ◇ 8 月カナダ住宅着工件数 (予想: 21.50 万件)
- 21:30 ◇ 7 月カナダ住宅建設許可件数 (予想: 前月比 2.3%)
- 11 日 02:00 ◎ 米財務省、3 年債入札
- インド (イスラム教新年)、休場

11 日

<国内>

○08:50 ◇ 7-9 月期法人企業景気予測調査

<海外>

○09:30 ◇ 9 月豪ウエストパック消費者信頼感指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

9 日 09:45 ブレイザーBOE(イングランド銀行)高官
「BOE は貸し手のブレグジットショックに対して十分に準備している」
「差し迫った総裁交代が BOE の方針を後退させることはない」

9 日 15:55 ドナフー・アイルランド財務相
「アイルランド政府はブレグジットの延長を支持する」

9 日 17:56 ジョンソン英首相
「我々と仕事は英国とアイルランドの関係を前に進めることだ」
「11 月までに行わなければいけないことは 2 つある。1 つは北アイルランドの統治を修復することと、もう 1 つはブレグジットを完了することだ」
「私は(ブレグジット案を)合意したい」
「10 月 18 日までに合意することはできる」

10 日 07:08
「ブレグジットを遅らせるつもりはない」
「ブレグジット期限の延期を望むなら国民に決めてもらう」

9 日 18:09 バラッカー・アイルランド首相
「多くの EU の国は(ブレグジットの)延長を望んでいない」
「10 月までにこの件が解決することが望ましい」
「しかしブレグジットの延長に正当な理由があれば、我々は考慮する」

9 日 18:23 ブリハ英中銀金融政策委員会(MPC)委員
「金利は何年間かは低くとどまるだろう」
「リセッションが通り過ぎたとは思わない」

9 日 19:44 ジョンソン英首相報道官
「ブレグジットの交渉には以前よりも多くの人関わっている」
「首相は 10 月 31 日に離脱できるように EU(欧州連合)の主導者と話し合う」
「首相は延長の道を探っていない。10 月 31 日に離脱する」
「議員にとって単純な解決策は、あれやこれやと探していないで、今選挙をして国民がブレグジットについて決定してもらうことだ」

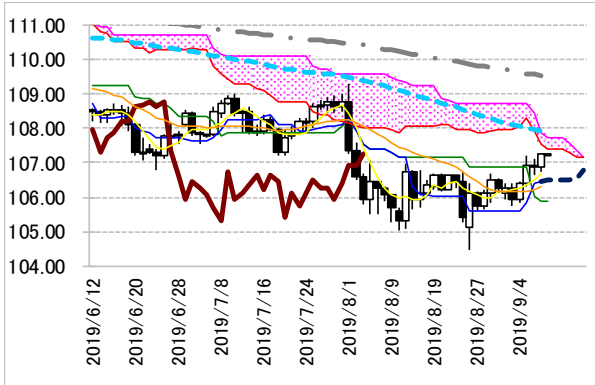
9 日 19:59 サウジアラビア・エネルギー相
「原油市場はネガティブなセンチメントで動いているが、原油の需要には影響を与えないと思う」
「人々は世界的なリセッションを予想しているが、今リセッションなのはどこもない」

9 日 21:29 ムニューシン米財務長官
「来年更なる税金の引き下げを検討」
「米国がリセッション入りするとは思わない」
「中国との次の交渉では為替についても話し合う」
「ロシア製ミサイル購入めぐり、対トルコ制裁を検討」

9 日 23:42 英下院のバーコウ議長
「辞任する意向」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

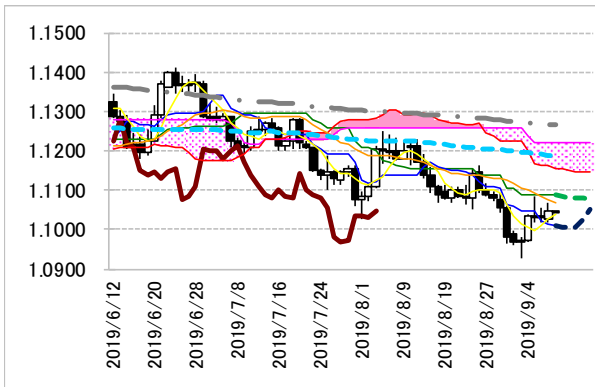


<ドル円＝雲が抵抗も、上値を試す流れ途絶えそうではない>

下影陽線引け。低下傾向をたどる一目均衡表・基準線へなびくように下押す場面もあったが、上昇中の5日移動平均線を割り込まない小幅な範囲にとどまった。

下値の一目・転換線も上昇中で底堅い展開を示唆。一目・雲が目先の抵抗となるが、反落しても転換線が支えとなり、上値を試す流れは途絶えないとみる。

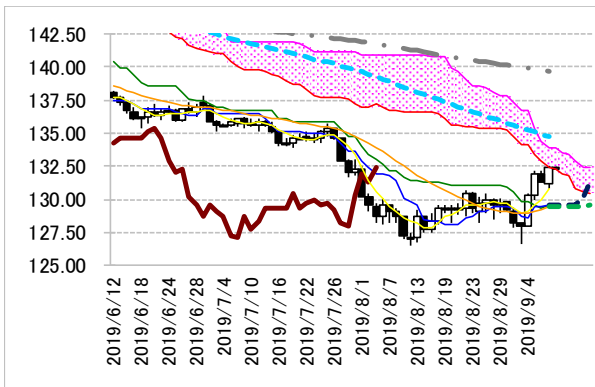
レジスタンス 2	108.31 (2018/10-2019/8 下落幅の 38.2%戻し)
レジスタンス 1	107.73 (日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	107.24
サポート 1	106.51 (日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル＝転換線・基準線レンジの上放れうかがう>

上影陽線引け。低下傾向の一目均衡表・基準線を下回る水準で推移しているが、今後の上昇が見込まれる一目・転換線を下回ることなく、両線に挟まれたレンジを維持している。本日 1.1010 ドルと小幅な低下が続く転換線は、まだ強い支えにならないかもしれない。だが、明日にも 1.1006 ドルで底打ちする見込み。同線の上昇とともに基準線を超え、レンジを上放れる展開が期待できる。

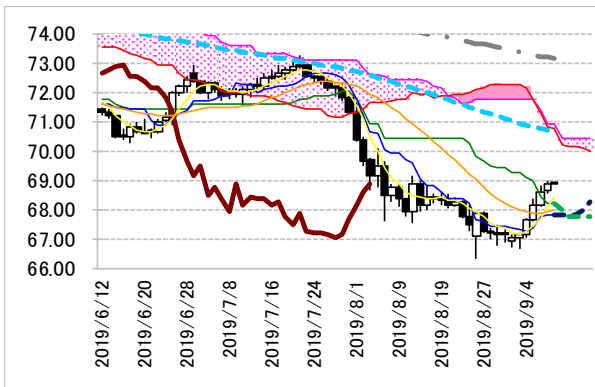
レジスタンス 1	1.1096 (ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1048
サポート 1	1.0987 (9/3-5 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円＝雲の抵抗を試す展開>

下影陽線引け。目先のすう勢を示す5日移動平均線付近が底堅く、一目均衡表・雲の抵抗を試す上昇となっている。低下する雲の下限に沿った下押しも視野に入れて臨みたい。一目・転換線や基準線のサポートは 129.60 円前後とやや下げられた水準だが、転換線はやがて水準を切り上げる見込み。調整の下押しがあっても値幅を限定し、底割れは回避できるだろう。

レジスタンス 1	133.00 (7/31 高値)
前日終値	132.40
サポート 1	131.68 (5 日移動平均線)



<NZドル円＝遅行スパンの買い示唆を狙う局面>

小陽線引け。8月13日以来の69円回復が目前となっている。一目均衡表・基準線の低下に引っ張られるように伸び悩むことも想定され、そうなると一目・遅行スパンが付近のローソク足を上抜いて買い示唆へ転換する展開はお預けとなる。しかし、低下する基準線に代わり、転換線が上昇基調を強める見込み。68円付近では21日移動平均線も支えとなりそう。底堅さを維持し、遅行スパンの買い示唆転換を果たせるだろう。

レジスタンス 1	69.78 (7/22-8/26 下落幅の半値戻し)
前日終値	68.89
サポート 1	68.44 (5 日移動平均線)

